

第168号

瓦版 えくれしあ

～ 集いの場 ～



目次

1. 外国人の問題から
2. 新聞記事から
 技能実習機構・本部は4部9課体制
 授業は教科書を読むだけ... 悪質な日本語学校、野放しに
 留学生の人権どこへ 共生の視点を持って 労働者として直視を
 外国人労働者の受け入れ企業 背景に人手不足
3. 美術館情報 華麗なるフランス絵画「ランス美術館展」
 特別展 快慶 日本人を魅了した仏のかたち
 台北 国立故宫博物院 北宋汝窯青磁水仙盆
4. 本の紹介 戦地からのラブレター 第一次世界大戦従軍兵から、愛するひとへ
5. 今月の言葉

外国人の問題から

(1) 中国地方の外国人の人数

私たちの周りに外国人がどの程度住んでいるのかは法務省から市町村別の統計が出ていますが、

市区町村別	国籍・地域別	在留外国人(上位9か国・地域) 2015年12月			
市区町村	総数	中国	フィリピン	ブラジル	ベトナム
広島県	42,899	14,002	6,265	2,280	4,859
広島市	16,664	5,184	1,730	456	1,190
呉市	2,991	612	799	440	431
竹原市	185	23	94	4	18
三原市	1,803	591	333	138	195
尾道市	2,103	396	700	58	251
福山市	7,409	2,753	1,185	431	1,451
府中市	410	177	82	2	54
三次市	492	115	157	38	32
庄原市	326	62	96	7	81
東広島市	5,396	2,673	301	230	422
廿日市市	1,067	355	218	29	132
安芸高田市	551	207	39	83	81
江田島市	673	196	184	10	122
海田町	815	143	54	279	54
北広島町	386	101	18	27	130
鳥取県	3,965	1,147	503	24	453
島根県	6,600	1,677	835	2,193	362
岡山県	22,439	8,263	1,682	843	2,939
山口県	13,875	3,256	1,203	97	1,269

各市町村ごとの細かな情報となるとが市町村のHPを見ても詳細な報告がされていない例はなかなか見つからず隔靴搔痒の所があります。ましてや外国人カトリック信者の人数となると雲をつかむ状態で教会に名簿すら存在しないエイリアン状況といえます。

広島教区(中国5県)の信徒数は2015年の統計(カトリック中央協議会のHP)では20,672人となっています。外国人信徒数について推計すると次の

ようになります。各母国でのカトリックの割合は、フィリピンが約 83%、ブラジルが 73%、ベトナムが 10%程度ようです。

これで計算してみると、フィリピンが 8,705 人、ブラジルが 3,969 人。ベトナムが 988 人の合計 13,662 人となります。この表にないペルー人は中国 5 県で 3,949 人います。同様に母国のカトリック率 89%を乗じると 3,515 人となり、合算すると 17,177 人となります。その他の国は不明ですが同数程度の外国人信徒がいると考えて良いようです。日本のカトリック教会は高齢化が進み既に外国人抜きにしては教会運営が成り立たないところも出てきています。島嶼部やバスの便の悪い地域に住んで教会に来ることができない人達が大多数かもしれません。私の家の近くのプロテスタント教会は立地条件の悪さを克服するためマイクロバスの定期便を出して信者さんの送迎を工夫しています。

中国人を除いた外国人の人数分布から見ると、フィリピン人が一番多いのですが、広島県では、福山市、東広島市、北広島町がフィリピン人よりベトナム人の方が多く状況です。他県では、数年たらずにベトナム人の方が多くなると考えられる状況です。特に岡山県はベトナム人が格段に多数を占めている状況にあります。そのためか岡山教会ではベトナム人技能実習生からの相談が最近増えていると聞いています。フィリピン人からはどうなのか不明です。

外国人の問題でバタバタしていると思っても広島・呉の極々一部のフィリピン人達だけの問題でしかありません。この表を見て問題の大きさを痛感させられてしまいます。

(2) 技能実習生が入管に相談に行ったら会社から帰国と言われた

名古屋に住んでいる技能実習生からの相談が先日ありました。残業代未払の問題と帰国の問題の二点セットです。経過を見ると、昨年 8 月に 3 名で来日し、名古屋市内の配管業者で働いているが残業代が支払われていない為、2 名が入管に相談に行ったとのこと。後日、社長から、ハローワークから「調査に入る。」と電話がかかってきたと言われたそうです。当然、怒った社長から「次の更新はしない。8 月には帰国させる。」と言われたそうです。また「残業代の事を文句言うのなら、迎えに行かない。始業時間の 8 時までに来ればいい。」と言われ 2 名は 40 分かけて自転車通勤することになったそうです。それまでは会社の車で迎えがあり 7 時に仕事開始でした。ハローワークから電話があったとの言葉には疑問を感じます。当然、労基署でなければならないはずですが、この点は本人たちも不思議に思っていたようです。おそらく相談を受けた入管は、労基署に連絡すると受入停止の問題が発生するため、協同組合に連絡したのではないかと考えられます。私自身も実習生問題に係りだした最初の頃入管に相談に行くと「協同組合に連絡しておくので話しを進めてもらいたい。」と言われていました。支援者が係っている場合は問題ないでしょうが、そうでなければ、今回のように、帰国の問題が出てくるのは当然のことかもしれません。ただ即帰国ではなく、1 年が経過し、次回の契約をしないと告げれば形式的には合法的な帰国となってしまいます。当然 2 年目の契約のためには技能認定試験に合格しておく必要があります。これを受けさせなければ当然帰国という筋道しか出てきません。名古屋のユニオンに依頼したの後は見守るだけしかありません。ただ、入管に相談しても改善されるのではなく悪い方向に向かってしまうという結果となっています。相談を受けた行政機関は技能実習生の地位と権利だけは守ることを大前提として対応してもらいたいものです。

この 4 月から発効する外国人技能実習適正化法の第 48 条 2 項に「実習実施者等は、前項の申告をしたことを理由として、技能実習生に対して技能実習の中止その他不利益な取扱いをしてはならない。」(6 月以下の懲役又は 30 万円以下の罰金)と定められています。残業代の問題が解決した後に発生するこうした不利益は誰が防ぐことになるのでしょうか。当然監理団体である協同組合ということになります。しかしそうした協同組合は少ないと言えます。自分が経営する会社向け人材確保のための協同組合や、組合会費をダンプして顧客獲得に走る協同組合もあります。ちなみに「外国人技能実習生.com」で見ると広島県内には 122 の協同組合がありました。

新聞記事から

技能実習機構・本部は4部9課体制

「労働新聞」メールマガジン No.235 2017/02/22 (水) 12:21 労働新聞編集長 箱田 尊文

今年の1月25日に設立されました外国人技能実習機構(鈴木芳夫理事長)の組織体制などの詳細がはっきりしてきましたのでご紹介します。スタート時の資本金は1億9304万円で、これは当然、国からの出資となります。平成29年度予算額(案)は約35億円です。

本部の組織体制は4部9課制とし、現場対応部署としては、「監理団体部」と「技能実習部」を設置します。「監理団体部」の下に「指導課」と「審査課」、「技能実習部」の下に「認定課」と「援助課」を設置します。実地検査や報告などの指導監督は「指導課」が当たります。

人員態勢は、これまでも労働新聞紙上で詳しく報道してきましたが、全体では340人、このうち本部役職員は約90人、残りの約250人は地方事務所職員となります。地方事務所職員のうち約150人が、実地検査の実施担当者となっています。都道府県労働局などからの出向職員で構成しています。

その地方事務所ですが、比較的大きい本所が8カ所、その他の支所が5カ所の合計13カ所となります。本所は、「事務所」と称し、東京、名古屋、大阪、広島、札幌、仙台、高松、福岡に設置します。支所は、水戸、長野、富山、松山、熊本となります。

本所、支所の組織としては、所長の下に「総務課」「指導課」「認定課」の3課を設けます。実地検査は「指導課」が、実習計画の認定は「認定課」が担当します。

厚生労働省職業安定局は、同機構職員と地方入国管理事務所との連携強化を図っていくとしています。同機構が実施する実地検査などが数次にわたって拒まれた場合など、一定の条件に該当すると監理団体、実習実施者に対して報告徴収や立入検査を行います。

また、地域ごとに設置する協議会において、実情に応じた不正防止対策、実習生の保護対策を立案していきます。協議会は、同機構のほか、都道府県労働局、地方入管局、業所管省庁の出先機関などで構成します。

授業は教科書を読むだけ... 悪質な日本語学校、野放しに

朝日新聞デジタル 伊藤繭莉、岡田玄 2017年2月27日 07時41分

カタカナのポスターが貼られた教室で真剣に授業を受ける日本語学校の生徒たち。こうした授業が成立しない悪質な学校もある = 20日、福岡市、岡田玄撮影



外国人留学生に日本語を教える「日本語学校」が急増している。法務省入国管理局のまとめでは、2月20日付で605校と過去最高だった。だが、定期的に学校の「教育の質」を管理する機関はなく、各地で学校経営者が逮捕されるなど問題も相次いでいる。

授業は教科書を読みあげるだけ。試験でカンニングが横行し、教師は注意もしない。福岡市内の日本語学校に通うアジアからの20代の留学生は、「ここは学校とはいえない」と話す。大学進学を目指して

来日した。年70万円近い授業料を払ったが、このままでは無理だと考え、日本人を雇って日本語を学んでいる。この学校の関係者は「教職員が次々と辞め、授業は成立しない状態だった」

と打ち明ける。基礎的な日本語を教える教育機関が「日本語学校」と認められるには、教員数や1クラス20人以下などの基準を満たす必要がある。だが、この学校では教員不足も起きていた。

全国の日本語学校数は、380校だった2007年以降、右肩上がりだ。政府は08年に「留学生30万人計画」を策定。企業の参入も相次ぎ、過去最高の605校（4月開校分を含む）に達した。専門家によると近年は「1980年代以来の設立ブーム」という。同時に、悪質な学校が各地で問題となっている。

日本語学校生は「留学」の在留資格で滞在でき、週28時間までのアルバイトが例外的に認められる。この仕組みを悪用し、福岡や栃木などでは、学校が留学生を複数のアルバイト先に送り、法定時間以上に働かせたなどとして学校経営者が逮捕された。学費を支払わせるために、法定時間以上のアルバイトを黙認する学校もある。

専門家や日本語学校関係者は「問題となった学校は氷山の一角。多くは野放しだ」と指摘する。学校設立後は「教育の質」が審査されなくなったためだ。国の外郭団体「日本語教育振興協会」が事実上すべての日本語学校の教員数や授業内容などを定期的に審査していたが、10年にあった民主党政権の「事業仕分け」で制度が廃止された。

現在は入管が毎年審査しているが、見ているのは事実上、在留期間を過ぎても出国しない学生の割合「不法残留率」だけ。3%以下なら優遇されるが、5%超は「非適正校」とされ、定員を増やせないなどペナルティーがある。

ある日本語学校の元職員は「不法残留率は経営に直結する。問題がありそうな学生は強制的に送り返した」と話す。学生を校内に監禁し、その間に荷物をまとめた。複数の職員で学生を取り囲んで空港に行き、無理やり出国させた。キャッシュカードを取り上げ、航空運賃の名目で金を引き出したこともあった。

別の日本語学校の経営者は「逃亡や不法就労をあっせんするブローカーが学生に接触することも少なくない」と語る。留学生を守るため、アパートやアルバイト先を訪問したり、一緒に食事をする機会を設けたりしているが、限界もある。「どんなに良い授業や学校づくりをしても『不法残留率』だけで判断される。絶対におかしい」と話す。（伊藤繭莉、岡田玄）

「5年で300人、日本に送った」

日本への留学生が急増しているネパール。首都カトマンズ市内の大手語学学校の経営者の男性は「日本の審査はここ数年、他国に比べて甘かった」と話す。日本留学には学費や生活費を支払えることを示す資産証明を入管に出す必要があるが、多くの留学生や家族はそんな資産は持たない。「学校が貸し付け、資産証明書を発行している。貧しくても生徒は必ず留学できる。学校は手数料と利息でもうかる」

留学コンサルタントを名乗る男性（30）は、日本に6年ほど不法滞在した経験があるといい、「日本で働いたことを話せば、みんな行きたがる」。学生1人が払うのは約100万円。1人送るごとに純利益は6万ルピー（約6万円）。5年で300人を送り、地元で3階建ての家を建てたという。

ベトナム・ハノイの送り出し会社の元社員の女性（28）は「面接もせず、とにかく人数だけ集めてほしいと依頼してくる学校もあった」と話す。学生から手数料を受け取るだけでなく、1人送ると日本の学校から10万円が「紹介料」として支払われる。送れば送るだけもうかった。「地方には、日本に行きたい若者はたくさんいる。優秀な子は技能実習生として、そうではない子を留学生として日本に送った」と語った。

教育の質、確保できる仕組みを

佐藤由利子・東京工業大准教授（留学生政策）の話 真剣に進学したいと考えている人が、入り口段階で悪質な送り出し業者と日本語学校につかまる例がある。十分に日本語も学べず、搾取とも言える構造がある。営利目的の企業が運営していても、学生には「学校」だ。教育の質を確保できる仕組みが必要だ。

留学生の人権どこへ 共生の視点を持って 労働者として直視を 本紙企画に反響

2017年02月19日 06時00分 西日本新聞

新 移民時代取材班にはメールなどで多くの意見が寄せられた（写真の一部を加工しています）



アルバイトに明け暮れる「出稼ぎ留学生」の姿を描き、過熱する「留学ビジネス」の実態に迫ったキャンペーン「新 移民時代」1～3部には、読者からメールや手紙など80件を超える意見が寄せられた。インターネットにも転載され、留学生を送り出すネパールの現地新聞が紹介するなど、国内外から反響があった。出稼ぎ留学生を巡る問題が顕在化するなか、少子高齢社会の日本で外国人労働者が不可欠な存在になっている現実に向き合えばいいのか、本紙に寄せられた声を紹介する。

1～3部は昨年12月から今年2月まで連載。深夜のコンビニで働く外国人が気になっていた福岡市東区の女性（38）は「やっぱり留学生は増えていた。記事を読んで納得した。困っていることがあれば、良き隣人として助けてほしい」。一方、同市南区の西鉄大橋駅近くの住民はアジア系外国人の急増ぶりに驚き、ごみ出しを含むマナー問題に悩み、対策を求めた。

留学生の就労制限「週28時間」についての意見も多かった。私費留学生はアルバイトなしでは生活ができず、中には二つ、三つのアルバイトを掛け持ちするケースも少なくない。

ある日本語教師は「28時間ルールは形骸化している。日本人がやりたくない仕事をしているのだ」。教師経験のある大学講師は、授業に出てこない留学生を叱ったところ「働かないと日本では生きていけない」と返答された。「切なかった」と心情を吐露した。

福岡県内の大学教授は「大学生でも日本語が分からず、平仮名も読めない。定員確保のために入学させている」と明かした。

留学生を受け入れる日本語学校が抱える課題の指摘も。沖縄県のNPO法人の比嘉正央理事長は「留学生の人権を無視し、生活環境さえ、悲惨な中に置かれている」。かつて国内で働き、現在は中国・北京に住む日本語教師（46）は「日本の日本語学校は闇が深すぎて働きたくない。経営者の多くは教育関係ではなく、建設業やサービス業など低賃金労働力として働かせるために受け入れている」と寄せた。学校によって「教師のやりがい搾取されている」との意見もあった。

こうした「名ばかり学校」への批判に対しては、留学生に向き合っている学校も多く、「偏見が心配だ。ちゃんとした所も記事で紹介してほしい」。

日本での暮らしに不満が高まれば「近いうちに外国人による犯罪が増える。外国人から愛されない国になってしまう」と危惧する声もある。

外国人労働者が100万人を突破するなか、「移民時代」を直視する提言も。北九州市内の日本語学校でボランティア活動を続ける男性は「外国人と共に生きる生活者としての視点が欠けている。安い労働者とししか見ていないのでは」。東京都内の日本語教師は「労働力をどう確保するのか、日本が本気で考えなければならない。移民として、留学生ではなく、労働者として受け入れる制度を設計すべきだ」と指摘した。

（新 移民時代取材班）= 2017/02/19 付 西日本新聞朝刊 =

外国人労働者の受け入れ企業 背景に人手不足 「貴重な労働力」

佐賀新聞 2017年02月11日 10時30分

工場で働くベトナム人技能実習生。人手不足を背景に、県内でも受け入れが増えている＝杵島郡江北町のイイダ靴下



制度趣旨揺らぐ

佐賀県内の外国人労働者が過去最高を更新し、初めて4千人を上回った。背景には企業の深刻な人手不足があり、「労働力の穴埋め」として技能実習制度などを活用して外国人を受け入れざるを得ない実態が浮かび上がる。一方で、実習先から失踪する外国人が増えてきており、「途上国への技術移転」という制度の趣旨が揺らいでいる。

ベトナム人技能実習生30人が働く衣料メーカーのイイダ靴下（杵島郡江北町）。いずれも10～20代の女性で、手慣れた様子でミシンを操り、靴下やタイツを縫い上げていく。「みんな勤勉で器用。働きぶりも申し分なく、貴重な戦力」と飯田清三会長。2002年に実習生の受け入れを始めた同社では、ベトナム人が全従業員の2割を占める。

16年の県内有効求人倍率（平均）は1.11倍。7年連続で上昇し、過去最高の1990、91年と同じ数値となった。これに対し求人に対して雇用できた労働者の割合は24.6%。卸売・小売、飲食・宿泊、建設、運輸業は10～20%台前半と低く、人手不足が顕著になっている。

外国人の受け入れ企業はこうした業種にも共通する。製造業を中心に宿泊・飲食、卸売・小売の雇用が目立つ。国別では中国人が1008人で最も多く、ベトナム人899人、ネパール人861人と続く。

実習生の受け入れ管理団体でつくる県協議会代表も務める飯田会長は「期限が限られており技能継承の課題はあるが、それでも外国人に頼らざるを得ない」と傘下企業の胸の内を代弁する。

人手不足が外国人雇用の増加に拍車を掛ける一方、長時間労働など劣悪な雇用環境に置かれたり、収入目的などで他の仕事場を見つけ失踪したりする外国人も増加している。実習生らに仕事を紹介する業者も介在するなど問題は根深く、佐賀や福岡県の企業に実習生を派遣する管理団体は「人権上、携帯電話や通帳を企業で保管することもできず、適正な雇用管理を促すことしかできない」と対応に苦慮する。

佐賀大のラタナーヤカ・ピヤダーサ教授（国際経済論）は東アジアの発展に貢献していることなど実習制度の意義を挙げた上で、「日本との所得格差を背景に、出稼ぎ目的で訪れる外国人と、人手不足の解消策として実習生を雇う企業との微妙な関係の上に成り立っている」と現状を説明する。

その上で、中国人実習生の雇用が頭打ちになっている状況に触れ、「ベトナムなど途上国の発展も時間の問題。外国人を安価な労働力としてしか見ない企業には魅力を感じず、雇用すらできなくなる」と指摘。地域住民も関わり、住環境を含む雇用の改善を図る必要性を訴える。

【美術館情報】

ひろしま美術館

華麗なるフランス絵画「ランス美術館展」

2017年2月11日(土・祝)～2017年3月26日(日) 会期中無休



フジタ作品を中心に、ダヴィッドからピサロ、シスレー、ゴッガン...

フランス北部に位置するランスは、歴代の王の戴冠式が行われた聖なる都市として知られています。ランス美術館のコレクションの中から、フランス美術400年の歴史をたどるにふさわしい作品の数々を紹介しします。レオナルド・フジタの充実したコレクションもお楽しみください。

奈良国立博物館

特別展 快慶 日本人を魅了した仏のかたち

平成29年4月8日(土)～6月4日(日) 毎週月曜日 ただし5月1日(月)は開館

快慶(かいけい)は、わが国を代表する仏師のひとりであり、鎌倉彫刻様式の完成に重要な役割を果たした人物として運慶(うんけい)と並び称されてきました。快慶には確証ある遺品が際立って多く、鎌倉時代初頭の造像界の動向を具体的に知るうえで不可欠な存在である一方、出自や工房など、その人物像には不明な点が少なくありません。

建久3年(1192)に無位でありながら後白河院(ごしらかわいん)追善の造像に抜擢されるなど、康慶(こうけい)の弟子のなかでも特殊な立場にあったようですが、こののち運慶と肩を並べて活躍の舞台を得る画期となったのは、後白河院主導のもと重源(ちようげん)により進められた東大寺再興造像でした。

「巧匠アン(梵字)阿弥陀仏」と称したことからわかるように、快慶は単に仏師として重源にしたがっていたのではなく、熱心な阿弥陀信仰者として造仏に臨んでいたことも見逃せません。彼が生涯をかけて追求した実在感と格調の高さを兼ねそなえた阿弥陀如来立像の姿は、後世「安阿弥陀様(あんなみよう)」と称され、来迎(らいごう)形阿弥陀の一典型としてながく受け継がれてゆきます。平安時代には、仏師定朝(じょうちょう)が「仏の本様(ほんよう)」と謳(うた)われる理想的な仏の姿をつくり出しましたが、快慶はこの定朝にも匹敵する役割を果たしたといえるでしょう。



本展は、快慶の代表的な作品を一堂に集めて、わが国の仏教美術史上に残した偉大な足跡をたどる試みです。さらに、快慶作品の成立と密接に関わる絵画や、高僧たちとの交渉を伝える史料をあわせて展示することにより、いまだ多くの謎に包まれた快慶の実像に迫ります。本展を通じて、多彩な快慶作品の魅力を堪能していただくとともに、現代を生きる我々の共感をいまもなお呼び起こし、仏の規範とされつづける快慶芸術の本質について考える機会となれば幸いです。

大阪市立東洋陶磁美術館 特別展「台北 國立故宮博物院 北宋汝窯青磁水仙盆」

【平成 28 年 12 月 10 日（土曜日）～平成 29 年 3 月 26 日（日曜日）】



本展では、中国北宋時代（960 年～1127 年）末に宮廷用の青磁を焼成した汝窯を代表する青磁水仙盆の名品をご紹介します。汝窯は「天青色（てんせいしよく）」とも形容される典雅な釉色と端正な造形を特徴とします。

今回、台北の國立故宮博物院から、汝窯の最高傑作であり、中国陶磁の名品中の名品といわれる「青磁無紋水仙盆」をはじめとした

北宋汝窯青磁水仙盆 4 点と、さらに清朝の皇帝がその「青磁無紋水仙盆」を手本につくらせた景德鎮官窯の青磁水仙盆 1 点が初めて揃って海外に出品されます。そして、日本を代表する汝窯青磁である大阪市立東洋陶磁美術館の青磁水仙盆と歴史的な「再会」が実現します。汝窯青磁を代表する青磁水仙盆の名品が初めて一堂に集う本展は、千載一遇の機会です。青磁水仙盆の名品を通して、歴代の皇帝たちが愛した汝窯青磁の美の真髓をご堪能ください。

汝窯の窯址は、2000 年に河南省宝豊県清凉寺村において発見され話題となりました。窯址からは水仙盆をはじめ伝世品に類する器型その他、伝世品には見られないタイプの製品も数多く発見され注目されました。また、水仙盆を焼成する際に用いられた楕円形の支焼具も出土しました。窯址出土の破片は焼け損じのため廃棄されたもので、美しい天青色のものはごくわずかであることから、汝窯の目指した釉色を出すことが極めて難しかったことがうかがえます。その意味でも汝窯の伝世品は極めて貴重なものといえます。本作は先の「青磁無紋水仙盆」同様、やや大きめのサイズのもので、ほぼ完璧です。釉色はやや青緑味を帯びています。汝窯の色合いは実際には一様ではなく、今回、汝窯最高峰と呼ばれる「青磁無紋水仙盆」をはじめとした伝世の汝窯青磁水仙盆が勢ぞろいする画期的な機会であり、自然光に最も近い LED 照明のもとで、それぞれの釉色の微妙な違いを味わうことが可能となります。

なお、本展に併せて館蔵品を中心とした特集展「宋磁の美（仮称）」も同時開催します。

汝窯青磁水仙盆予告動画 <http://www.moco.or.jp/exhibition/upcoming/?e=366>



口縁部には、清時代に宮廷でつくられた銅製の覆輪（ふくりん）装飾が施されています。器壁がやや低いことから、大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の青磁水仙盆と同様、口縁部が少し欠けたため全体を削って調整し、覆輪で覆い隠したものと思われます。本作の底部にも乾隆帝の御製詩が刻まれており、その内容は先の「青磁無紋水仙盆」と基本的に同じです。この乾隆帝の御製詩や清朝の宮廷文書から、こうした水仙盆は当時、「子犬の餌入れ」や「猫の餌入れ」などとも呼ばれていたことが分かります。清朝の絵画には盆景用の容器として用いられた覆輪付きの水仙盆が描かれた例もありますが、北宋時代における用途はなお不明です。なお、本作にも紫檀製の台座が付属しています。

本の紹介

戦地からのラブレター 第一次世界大戦従軍兵から、愛するひとへ
ジャン＝ピエール・ゲノ編 亜紀書房 1,900円

戦争と宗教の関連に関心があり気になって手に取ると表紙カバーに「結婚したばかりの妻に天国での再会を誓う銃殺前夜の手紙。実家の農家の収穫を心配し、手伝えないことを家族に詫げる手紙。塹壕でのつらい日々を母に、恋人に訴える手紙。ラジオ番組の呼びかけに応じて、納屋や屋根裏に仕舞われた、たくさんの古い手紙が集まった。若い命が意味もなく奪われ続ける第一次世界大戦の戦地にて、必死の思いで綴られた「ラブレター」は、読む者の心をゆさぶらずにはおかない。」とあり気楽な気持ちで読み始めると、そんなのどかな話ではなく、死と紙一重の所に生きている兵士たちの思いまた戦場の様子を始めずさまじい状況がつづられており、何とも言えない思いに駆られました。戦争を知らない子供たちの一人として戦場での場面は映画の世界とか小説の世界の活劇譚でしかありません。しかしこの本に綴られていることは当に書いた本人が置かれている状況であり、死を目前にした人達の言葉であるため重く心に響いてきました。この本を読んで感じるのは戦争がいいとか悪いとかの問題ではなくまた国の大義などの問題ではなくただ家族や子供や恋人を守りたい、家庭を維持したいとの思いです。手紙の著者の紹介の一つに次のようなものがありました。「ラザル・シルベルマンは、婦人服の仕立て屋をひとりで営んでいた。移民としてフランスに暮らしていた彼は、フランスへの同化を望み、あえて軍に志願した。志願する直前、彼は妻サリーに遺言とも取れる手紙を書いている。妻もまたルーマニアからの難民であり、二人の間には四人の幼い子供がいた。ラザルは、戦争を生き抜いたものの、戦地での負傷、後遺症のため一九二〇年に死亡している。妻サリーはその二十二年後の一九四二年、ユダヤ人収容所で死亡。」

言葉

体のともし火は目である。だから、もしあなたの目が純真なら、あなたの体は全体が輝いているであろう。

しかしあなたの目がよこしまなら、あなたの体は全体が暗闇であろう。だが、あなたの中の光が闇でしかないならば、その闇の深さはどれほどであろうか。

マタイによる福音書
6章22節～23節

発行所

医事業務支援センター・小松社会保険労務士事務所
フィリピン人労働者を支援する会

〒734-0045 広島市南区西本浦町 14-11-511

携帯 090-7590-0215

e-mail k.komatsu@do.enjoy.ne.jp <http://srk2002.com/>

平成29年 3月 1日 発行